

平成21年度離島交付金実施状況
市町村名 名護市

集落協定策定集落数	3
交付対象集落数	6
実施集落率 / %	50%

1 集落協定締結数	協定締結集落名	城・汀間・辺野古				
	一般・特認の別	一般				
	協定を策定したセンサス上の集落数	3				
	協定参加世帯数	43				
	うち漁業世帯数	43				
	実施集落率 / %	50%				
2 集落協定に位置づけられた活動内容	漁場生産力向上の取組	4				
	種苗放流					
	藻場・干潟の管理・改善					
	産卵場・育成場の整備					
	水質維持改善					
	植樹・魚付き林の整備					
	海岸清掃					
	海底清掃					
	漁場監視					
	その他(オニヒトデ駆除)					
	その他(サメ駆除)					
	その他(藻場調査)					
	その他(バヤオの製作・設置)					
	創意工夫を活かした新たな取組	3				
	新たな漁具・漁法の導入					
	新規漁業への着業					
	新規養殖業への着業					
	協業化による経営収支の改善・安全性の向上					
	低・未利用資源の活用					
	品質の均一化に向けた取組					
	高付加価値化					
	流通体制改善					
	簡易加工					
	海洋レジャーへの取組					
	伝統漁法の取組					
	漁労技術の向上の取組					
	販路拡大					
その他(先進地視察)						
その他(イタ-ネット開設)						
その他(魚食普及活動)						
その他(モスク培養種の技術開発)						
その他(体験漁業)						
その他(イベントの開催)						
3 交付金額とその使用方法	交付金額(千円)	8,285				
	うち前年度からの繰越額	0				
	集落協定の管理体制における担当者の報酬	0				
	交付事務の委託料	224				
	話合い・備品に関する経費	0				
	漁場生産力の向上に用いる経費	5,763				
	種苗放流	264				
	藻場・干潟の管理・改善	0				
	産卵場・育成場の整備	2,524				
	水質維持改善	0				
	植樹・魚付き林の整備	0				
	海岸清掃	0				
	海底清掃	455				
	漁場監視	426				
	その他	2,094				
創意工夫を活かした新たな取組に要する経費	2,298					
その他雑費						
積立・繰越						

離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落協定の概要

都道府名：沖縄県

市町村名：名護市

協定集結集落名：城（港）、辺野古、汀間集落

交付金額：29,240 千円（うち平成 21 年度交付金額 8,285 千円）

協定参加世帯数：56 人（うち漁業世帯 43 世帯）

2. 協定締結の経緯

本市の漁業は、県内でも有名なイルカ漁をはじめとし、一本釣り、定置網、刺し網等様々な漁法を用いて営まれてきました。3面の豊かな海域が広がりそれぞれ特色がある漁場は、漁業者がこれを保全するとともに周辺水域の有効利用を図ってきました。しかし、自然環境の悪化などによる漁獲量の減少や、魚価の低迷により、漁業者の所得が低下し、本市の漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も失われていく懸念がある。

このため本市は、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する集落での話し合いを通じて集落機能を再編し、必要な場合は既存の慣行を見直し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組める環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施する必要があることから、その取り組みの継続を下支えするために離島漁業再生支援交付金による更なる漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組内容

漁場の生産力の向上に関する取組状況

- ・浮魚礁 東側海域の既存パヤオ周辺に新たに1基設置し、相乗効果による漁獲高安定が期待できる。
また、水深が比較的浅い西側海域へ浮魚礁を1基設置する事により、小型漁船等での曳縄漁等が可能になり、漁獲高向上が期待できる。
- ・稚ウニ移植 夏場の魚価低迷時において貴重な収入源となるウニを、魚場監視が容易な海域や、藻場が豊富な海域へ移植することで、密漁防止や資源回復、燃料消費削減等の効果が期待できる。
- ・魚場監視 資源保護と漁獲安定のため密漁などを防止する為、比較的、干満の差が大きい日に監視活動を行った。
- ・産卵場の整備 近年漁獲が減少しているアオリイカの産卵床を各集落地先へ20基設置し、資源回復を目指す。
- ・海底清掃 漁場周辺海底の古い漁具や、空き缶等のゴミを回収し、清掃を行った。

集落の創意工夫を活かした新たな取組状況

- ・新規養殖業への着業

昨年より、新たに着手したモズク養殖だが、収穫時期が短期な為、収穫機の不足が発生した。

そのため、収穫の遅れによる品質低下があり、集落にて収穫機を所有することにより、品質向上を図った。

- ・高付加価値化

主に県外へ出荷している鯨肉を県内で流通させるため、安価な部分を中心に、加工品の開発を行い、6種類の商品を製造した。

また、開発商品の衛生管理において、重要な雑菌の繁殖を抑え、長期保存が可能な真空包装機を導入した。

- ・魚食普及活動

平成21年度完成した水産物直販所と集落が連携し、魚祭りを開催し、開発中の加工品や、鯨料理の試食アンケート、マグロ解体ショー等を行い、販売促進と、直販所の周知を実施した。

4. 取組の成果

- ・浮漁礁設置

浮漁礁は食物連鎖により魚が着くため、漁の開始は設置後3カ月以上先となり、成果については平成22年度漁獲量に影響すると思われる。

- ・稚ウニ移植

以前は、赤土流出や密漁により、激減していたが、移植と漁場監視により個体数が大幅に回復している。

また、同時に、漁獲制限を行って操業しているため、個体数が大幅に増加している。

(港勢調査資料による漁獲高では、取り組み以前と比べ、6.7トンの増加がみられた。)

- ・魚場監視

干満の差が大きく、潮干狩りシーズンが始まる3月に漁場監視を行いながら、潮干狩りを楽しむ方へ、漁業権の説明と、捕獲禁止生物の内容を配布し、啓発を図った。

- ・産卵場の整備

設置後、約3週間程度で産卵が確認でき、今後の資源回復が期待できる。

- ・新規養殖業への着業

導入した収穫機による安定した収穫を行い、品質向上が図られた。

良質な糸モズク、本モズクが収穫できた。

- ・高付加価値化

鯨肉の県内流通を図るため、県外での加工品や、販売方法を視察し、鯨肉の加工に取り組み、試食アンケート等を実施しながら、6種類の加工品が完成した。

また、衛生面と長期保管も考え、真空包装機を導入し、加工品を真空パックし、今後の販売に向けて集落にて継続開発を行っている。

- ・魚食普及活動

水産物直販所と連携し、お魚祭りを開催した。

魚祭りでは、マグロの解体ショーを始め、加工品の試食アンケート、鯨料理の試食を行い、大勢のお客さんが訪れ、大盛況であった。

また、当日の直販所の売上が前週と比べ 200%の増となり、今後の鮮魚販売へ期待が高まる。



浮漁礁設置



イカ産卵場



ウニ移植



お魚祭り



加工品試食



加工品完成